

第1章 公共用水域の水質測定結果

I 趣 旨

この水質測定結果は、水質汚濁防止法（昭和45年法律138号）第16条の規定により策定した「平成22年度公共用水域水質測定計画」に基づき測定した結果をとりまとめたものである。

II 調査の概要

- | | | |
|---|-------|-------------------------------|
| 1 | 期間・回数 | 平成22年4月から平成23年3月まで |
| | | 項目により、毎月（年12回）から年1回実施 |
| 2 | 調査地点 | 県内公共用水域（河川、湖沼、海域） |
| 3 | 調査機関 | 鳥取県、国土交通省、鳥取市、米子市、倉吉市、八頭町、伯耆町 |
| 4 | 調査項目 | 生活環境項目 10項目 BOD、COD、全窒素、全リン 等 |
| | 健康項目 | 27項目 カドミウム、全シアン、鉛 等 |
| | 要監視項目 | 29項目 農薬、全マンガン、ウラン 等 |
| | 特殊項目 | 3項目 銅、亜鉛、鉄（溶解性） |
| | その他項目 | 10項目 塩化物イオン、アンモニア態窒素 等 |

III 調査結果の概要

1 健康項目（表1参照）

38河川（千代川水系、天神川水系、日野川水系、旧加茂川、加茂川、大正川、蒲生川、塩見川、河内川、勝部川、由良川、加勢蛇川、阿弥陀川、佐陀川）103地点、4湖沼（湖山池、東郷池、多鯨ヶ池、中海）14地点及び2海域（美保湾、日本海沿岸）16地点において測定を行った結果、旧加茂川の1地点、中海の3地点においてほう素が環境基準を超過していた以外、環境基準に適合していた。

ほう素が環境基準に適合していなかった原因については、いずれも海水の影響を受ける調査地点であることから、海水に含まれるほう素の影響を受けたものと思われる。

2 生活環境項目

（1）BOD又はCODの環境基準適合状況※（表2、表5参照）

ア 河 川

（ア）千代川

千代川は、有富川との合流点から上流は類型AA（BOD 1mg/l以下）、下流は類型A（BOD 2mg/l以下）の環境基準があてはめられており、環境基準地点5地点（類型AA水域3地点、A水域2地点）のすべてで環境基準を達成している。

また、補助地点の3地点（類型AA）も、すべて環境基準を達成している。

(イ) 天神川

天神川は、小鴨川合流点から上流は類型AA、下流は類型Aの環境基準があてはめられており、環境基準地点4地点（類型AA水域2地点、A水域2地点）の全てで環境基準を達成している。

また、補助地点の1地点（類型AA）も環境基準を達成している。

(ウ) 日野川

日野川は、日野橋から上流は類型AA、下流は類型Aの環境基準があてはめられており、環境基準地点5地点（類型AA水域3地点、A水域2地点）のうち、類型AAの1地点（生山）で環境基準を超過しており、類型Aに相当している。

また、補助地点の3地点（類型AA）の全てで環境基準を超過しており、類型Aに相当している。

イ 湖 沼

(ア) 湖山池

湖山池は、類型A（COD 3mg/l以下）の環境基準があてはめられている。環境基準地点4地点とも環境基準を超過しており、類型C（COD 8mg/l以下）に相当している。

(イ) 東郷池

東郷池は、類型Aの環境基準があてはめられているが、環境基準地点4地点とも環境基準を超過しており、類型Cに相当している。

(ウ) 中海（鳥取県水域）

中海は、類型Aの環境基準があてはめられている。環境基準地点3地点のうち、2地点（葭津地先、米子湾中央部）で環境基準を超過しており、それぞれ類型B（COD 5mg/l以下）、類型Cに相当している。

また、補助地点6地点（類型A）のうち、4地点で環境基準を超過しており、美保飛行場地先、彦名町地先、中浜港の3地点で類型B、旧加茂川河口地先の1地点が類型Cに相当している。

ウ 海 域

(ア) 美保湾

美保湾は、境港外港港湾計画水域については類型B（COD 3mg/l以下）、その他の水域は類型A（COD 2mg/l以下）の環境基準があてはめられており、環境基準地点8地点のうち、類型Aの1地点（境港市昭和町境港防波堤燈台の北方0.2km）で環境基準を超過しており、類型Bに相当している。

(イ) 日本海沿岸海域

日本海沿岸海域は、類型Aの環境基準があてはめられており、沖合8地点の全

てで環境基準を達成している。

※公共用水域の水質の代表的指標であるBOD（河川に適用）又はCOD（湖沼、海域に適用）の環境基準の適合性については、「各基準地点において、総測定日数の75%以上が環境基準を満足していること」とされている。

（2）全窒素及び全燐の環境基準及び暫定目標値の達成状況（表3、表6参照）

湖山池においては、環境基準地点4地点とも、環境基準（類型Ⅲ：全窒素0.4mg/ℓ以下、全燐0.03mg/ℓ以下）を達成していなかった。また、4地点とも「第2期湖山池水質管理計画」に定めている水質目標値（全窒素0.30mg/ℓ、全燐0.033mg/ℓ）を超過しており、目標値を達成していなかった。

中海（鳥取県水域）においては、環境基準地点3地点のうち、1地点（境水道中央部）のみが、全窒素の環境基準（類型Ⅲ：0.4mg/ℓ以下）を達成していたが、全燐の環境基準（類型Ⅲ：0.03mg/ℓ以下）は3地点とも達成していなかった。また、類型Ⅲの環境基準があてはめられている9地点（環境基準地点3地点、補助地点6地点）において、全窒素、全燐とも3地点（うち環境基準地点1地点）が「第5期中海に係る湖沼水質保全計画」の目標値（全窒素0.46mg/ℓ、全燐0.046mg/ℓ）を超過しており、目標値を達成していなかった。

※湖沼に係る全窒素、全燐については、「表層の年平均値により評価すること」とされている。

（3）平成21年度との対比と経年変化（表4参照）

ア 河川

（ア）三大河川

千代川及び支流の八東川、私都川、佐治川の水質は経年的に見ると大きな変化がなく、ほぼ同程度であるが、平成21年度よりやや水質が悪くなっている。

天神川及び支流の小鴨川、三徳川、加茂川の水質は、経年的に見るとほぼ同程度であり、平成21年度と比べてもほぼ同程度であった。

日野川及び支流の板井原川の水質は、経年的に見ても平成21年度と比べてもやや悪くなっている。支流の法勝寺川の水質はほぼ同程度であった。

（イ）二級河川

二級河川8河川については、経年的に見ると大きな変化がなく、ほぼ同程度であった。平成21年度と比べると蒲生川、由良川、加勢蛇川、阿弥陀川、佐陀川、塩見川、河内川の水質はほぼ同程度であるが、勝部川の水質はよくなっている。

（ウ）都市河川

袋川、玉川、旧加茂川の水質は経年的に見るとほぼ同程度であり、平成21年度に比べてもほぼ同程度であった。

イ 湖 沼

湖山池の水質は平成21年度に比べてやや悪くなっており、経年的に見ても平成22年度はやや高い値となっている。

東郷池の水質は平成21年度とほぼ同程度であり、経年的に見てもほぼ同程度であった。

多鯰ヶ池の水質は平成21年度に比べてやや悪くなっているが、経年的に見るとほぼ同程度であった。

中海の水質は平成21年度とほぼ同程度であり、経年的に見てもほぼ同程度であった。

ウ 海 域

美保湾の水質は平成21年度に比べてやや悪くなっており、経年的に見ても平成22年度はやや高い値となっている。

日本海沿岸海域の水質は、平成21年度とほぼ同程度であり、経年的に見てもほぼ同程度であった。